

平成27年8月1日発行

鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>



鯖街道が「日本遺産」第1号に認定

海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群

みけつくに
～御食国若狭と鯖街道～

祝賀セレモニー賑わう

文化庁が「日本遺産」認定の第1号として18件を発表。福井県から唯一、小浜市と若狭町の「御食国若狭と鯖街道」が選ばれました。

4月24日(金)、小浜市のいづみ町商店街と若狭町熊川宿で祝賀セレモニーが行われ

れました。

熊川宿では宿場館前に於いて、松崎小

浜市長から森下若狭町長へ「日本遺産1号認定」のたすきがリレーされました。

街道では、お祝いに集まった地元の小
学生や区民につきたてのお餅や葛まんじ
ゅうが振る舞われ、日本遺産認定の喜び
に包まれました。



日本遺産認定祝賀セレモニー(4月24日・宿場館にて)

Keyword

日本遺産 (Japan Heritage) とは
文部科学省が平成27年度に創設した国の新制度。日本の伝統や文化を世界にPRする「クールジャパン」戦略の環、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・歴史を語るストーリーを認定するとともに、魅力ある文化財群を整備・活用し、国内外に発信することで、観光振興など地域の活性化を図ることが目標で、国は2020年までに100件の認定を目指す予定。

今後、両市町や各地の観光関係機関、まちづくり団体等と連携して観光PRを行い、誘客拡大に繋げたいとしています。

◇ストーリーの概要

若狭は、古代から「御食国」として塩や海産物など豊富な食材を都へ運び、都の食文化を支えてきた土地です。

また、大陸からつながる海の道と都へつながる陸の道が結節する最大の拠点となった地であり、古代から続く往来の歴史の中で、街道沿いには港、城下町、宿場町が栄え、また往来によりもたらされた祭礼、芸能、仏教文化が街道沿いから農漁村にまで広く伝播し、独自の発展を遂げました。

近年、「鯖街道」と呼ばれるこの街道沿いには、往時の賑わいを伝える町並みとともに、豊かな自然や、受け継がれてきた食や祭礼など様々な文化が今も息づいています。

目次

- 日本遺産認定……………1
- 寄稿文・事業計画……………2～3
- 事業報告・研修報告・寄稿文……………4
- 研修報告・話題……………5
- 活動報告・お知らせ……………6

熊川宿のまちづくり

平成27年度熊川区長 吉岡安正

この地で生活をしている全ての人々の思いは、安全で住み良い居住環境を望んでいるの言うまでもありません。

近年、局地的な集中豪雨が起る傾向が強まってきており、熊川地域に何時起こっても不思議でなくなりました。危険が予想される場所を早急に改善する為の砂防工事を進める事が最優先だと思いましたが、遅々としているのが現状です。

そのような状況下では災害から逃れる手立てとしては、個々が常日頃から防災に関する意識を持つ事と共に集落内での一人暮らしの高齢者や障害のある方々への支援を地域ぐるみで確認し合う取り組みが必要です。又地域の活性化を図るには少子高齢化が益々進行していく中で、高齢者の生き甲斐と共に若い人たちが熊川に居住出来る魅力づくりがどうしても必要です。

同時に雇用を創り出す為の企業誘致や介護サービス関係の充実、そして観光で訪れて下さる人々へのおもてなしや土産物ビジネスを大々的に行う事等が考えられます。

今年4月に、「御食国若

狭と鯖街道」としてこの地域が日本遺産に認定され

ました。景観スポット群を面として捉えることで活性化を図ることが、今の熊川区にとって一番旬であります。この事は若狭町行政と連携して対応することが最も良い方法だと私は思います。

陣屋跡と嶺南病院跡の活用方法については、今後熊川区としてどのようなコンセプトを持って活用すべきかを検討し、策定しなければならぬと思いますので皆様方の忌憚のないご意見を参考にしたいと思っております。

会長退任のごあいさつ

河合 健一

今年もまた暑い夏が巡ってまいりました。さて、私こと、今春をもって、10期20年の永きにわたり務めさせていだいてきました「若狭熊川宿まちづくり特別委員会」の会長を退任させていただきます。ただくこととなりました。

思い返しますと、今日の熊川宿が国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、前夜としての、平成7年からの

ことでもあります。

最初の仕事としましては、旧逸見勘兵衛家の起死回生であります。所有者の今は亡き逸見諒様のご厚意と、町の大きな予算をいただきながら、西村幸夫先生のアイデアと吉田桂二先生の設計により、あのようにモデルハウスとして生き返ったのであります。

その後、平成8年には重伝建の選定に加えて、旧建設省の歴史国道、国土庁の水の郷にも選ばれ、7月には祝賀のちようちん行列をしたことが思い返されます。そして、福井宇洋先生のご指導による民家の修理と街道の景観整備、中条橋の架け替え、道の駅のオープなどが進められていきました。それらと併行して、平成10年には、京都一乗寺郷土芸能保存会の皆さまとの交流により、80年ぶりに、てっせん踊りが復活しました。また、平成14年には、文化庁のふるさと文化再興事業により、40年ぶりに白石神社の山車と見送り幕が復活しました。二つの伝統行事が、昔のように再興できましたことは、誠に感無量であり、往時のにぎわい

が心の中によみがえってまいりました。さらには、まちづくりフォーラムや熊川いっぶく時代村の開催、プータンとの交流、まちづくり計画や防災まちづくり計画の策定などを行ってまいりました。そして、昨年5月には全国大会の開催、この4月には鯖街道が日本遺産第1号に認定されたのです。

今日まで、文化庁、福井県、さらには全国の伝建地区のお仲間の方々の皆さまでのご指導をいただきながら、我々熊川に住まう住民が、町の行政の皆さんと共に、悩み、考え、喜びも悲しみも今日まで共有しながら、歩ませていただいたきたわけがあります。

今後、ここに生きながら、新会長の宮本哲男君を先頭に、多様な、そして終わりのない「みんながよくなるまちづくり」を継続し、深化させていっていただきたいと思います。

今年の白石神社祭礼山車巡行



最後になりますが、お世話になりました皆さまに深甚の感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

会長就任のごあいさつ

若狭熊川宿まちづくり特別委員会会長

宮本 哲男

本年度より河合前会長の後任としてまちづくり特別委員会の会長をさせて頂くことになりました。

ご承知のように、河合前会長は20年間の永きにわたって会長として熊川宿のまちづくりに尽力をされた大きな功績を残してこられました。4月24日の日本遺産認定イベントにおきまして、森下若狭町長からも、河合さんの功績に対しお礼の言葉がありました。が正に同感でした。

まちづくり活動の経験が浅い私が河合前会長の後を引き継ぐことには大きな抵抗がありました。が、ここ数年、河合前会長や藤本前会長代理と共に各地の伝建協や町並みゼミ、あすの福井県を創る協会の活動等に参加させて頂いた

熊川宿の活動を紹介する機会を通じて、まとまりのよい熊川の取組みの素晴らしさを感じたことと、役員選任委員さんからの推薦もあり引き受けさせて頂きました。

私は、小さい頃から無線や電気に興味があり、通信機なども自分で作ったりしました。が、反面、歴史や文化といった面では知識もさっぱりです。

また、仕事から現役生活の半分は単身赴任など地元を離れての生活でしたので、お役にたてるか不安ですが、何とか頑張りたいと考えておりますので皆様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

熊川はいつぶく時代村を始め多くのイベントを行っていますが、永年のまちづくり活動の経験から、熊川地区のみんなが協力できる、まとまりある大きな力を有しております。



熊川宿まちづくり特別委員会にて
熊川いつぶく時代村実行委員会主催

これからは、伝建地区や日本遺産認定地域のまちづくりについて、色々な面でサポートできるような取組みを積極的に行う事が、行政のお礼にもなると考えており、一層強固な取組みを行っていききたいと考えています。

併せて、日本遺産認定以降、観光の皆さまも増加しております。何度訪れても飽きないまちづくりは、お客さまをもてなし満足いただく事が最重要と考えております。お見えになるお客さまの満足度向上のため、住民のおもてなし意識の向上を図ると共に、熊川宿ホ

ームページでのお店情報紹介など、積極的な情報提供を行い、コミュニケーションの機会を増やし、心地よい熊川宿を創生するなど、新たな分野にも活動を広げたいと考えております。

熊川の高齢化率は若干低下しておりますが、相変わらず空き家が多い状態です。UターンやIターンを促進するため、空き家対策部会では相続に対する取組みも行いたいと考えています。

いずれにしましても、みんなが無理することなく、楽しいまちづくり活動を行っていきたくと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いします。

みんなでまちづくりを頑張ります。しょう。

◇宮本哲男氏プロフィール

1953年、若狭町(旧上中町)熊川生まれ。

1969年、関西電力に入社。主にネットワーク技術(配電)関係の仕事に従事し、彦根営業所長を最後に平成22年に退職。

地域では熊川区長代理、区長、熊川いつぶく時代村実行委員長、まちづくり委員会空き家対策部長を歴任、現在に至る。自主防災体制強化の観点から経験を活かし活動を進めてきた。

平成27年度 若狭熊川宿まちづくり特別委員会 事業計画 (H27.7)

- 4月23日 まちづくり役員会
- 4月24日 日本遺産認定祝賀セレモニー
- 5月13日 まちづくり委員会・合同部会
- 5月16日 ツーデーマーチ協力
- 5月20日～22日 第37回全国伝建協議会総会・研修会出席 (長野県東御市・海野宿伝建地区)
- 6月4日 ファンクラブ部会
- 6月12日～13日 全国町並みゼミ豊岡大会出席(兵庫県)
- 6月28日 七夕飾り
- 6月28日 ケイトウの種まき (福井県クリーンアップ&フラワー大作戦)
- 7月下旬 白石神社や町並みの清掃
- 7月28日 若狭町伝建地区保存審議会
- 8月1日 町並み通信第31号発行
- 8月2日 金堂小学生来訪 交流まち探検
- 8月13日～15日 街かど陶の灯り展H27 (熊川宿陶の灯り展実行委員会主催)
- 9月 まちづくり委員会・各部会
- 10月4日 第16回熊川いつぶく時代村 (熊川いつぶく時代村実行委員会主催)
- 10月下旬 文化庁調査官を囲む会
- 12月 まちづくり委員会・各部会
- 平成28年
- 1月下旬 町並み通信第32号発行
- 2月 熊川宿まちづくり総集会
- 3月 最終まちづくり委員会

<随時>

- ・全国町並みゼミ北信越ブロック大会の受け入れ準備
- ・伝建選定20周年記念行事の開催に向けて
- ・平成27年度あすのまちづくり応援事業
- ・空き家を活かした移住推進事業の継続
- ・風景街道支援事業の要望
- ・町並み関連の駐車場、前川、道路、神社の清掃と草刈り、看板の補修等
- ・ホームページ更新
- ・委員会、役員会、部会を開催
- ・若狭町並みに近隣のまちづくり研修・交流会に参加

熊川宿まちづくり総集會

とき…平成27年2月15日(日)
ところ…熊川児童館

初めに、西村毅熊川区長、森下裕若狹町長、河合健一まちづくり会長から挨拶がありました。

続いて、あすの福井県を創る協会の花いっばい運動で、ひまわりを美しく咲かせた方や、清掃活動にご尽力頂いた方に表彰状とオリジナルシヨベルが贈られました。



第一部では、立命館大学経営学部の八重樫文教授が「若狹町と立命館大学との取組み」と題して講演されました。

若い人だけに聞こえる周波数の音があることや、トリックアート、同じ色でも人それぞれに感じ方が違うことなどを紹介。「いろいろな人が協力して、地域内で団結し、老若男女が楽しめることが大切」「空き家の有効活用と地域コミュニティ、空地の有効活用、世代間の交流促進により、心身ともに健康で、幸福を感じられる環境づくりが必要」と、熊川地域まちなか再生事業について語られました。

第二部では、

岩本実氏が、第一回全国自主防災組織リーダー研修会での報告を行い、「より多くの人に防災活動に参加してもらおう工夫や、想定される災害の内容に合わせた防災訓練が大切」と述べられました。



最後に、河合健一会長が、「これからは新しい組織の中で、若い人たちにも活動に参加してもらいたい」と締めくくられました。

全国町並みゼミ豊岡大会報告

とき…平成27年6月12日(金)13日(土)
ところ…兵庫県豊岡市

来年度、熊川宿で全国町並みゼミ北信越ブロック大会の開催が検討されている事もあり、今回、第38回全国町並みゼミ豊岡大会に参加してきました。

特に印象に残っているのは2日目の分科会のお話で、「観光とは「自分の人生を切り開く光を、心で観ること」である。単なる産業としての観光地づくりではなく、人が人によつて感動する」と言う事でした。出石地区への

9年間の思い出

若狹町産業課 主査 岡本 潔 和

4月から産業課に異動になり、熊川の仕事から離れました。平成18年から9年もの長い間お世話になったことになりました。平成18年、第二次マスタープランの策定が最初の仕事でした。多くの気づきと出会いがありました。19年にはおもてなしの会が設立され、逸見家での喫茶が開始されました。住民の皆さんの行動力に驚かされました。20年は防災まちづくり計画の

リピーター率は驚異の80%！その理由は、アンケートの結果、町で出会った中学生や掃除をしている人が挨拶をしてくれて気持ちよかったです。人力車のおじさんが歌を歌ってくれた。などだそうです。見る・買う・食べるだけでなく、「魅る」が大切であると。また出石の皿そば食べに行きたい。



策定。22年は荻野家の調査。23年は近隣火災通報システムの整備。集落全体で取り組んだことが大きな評価をいただきました。24年、25年はバス停や体験交流施設が整備され、荻野家が重要文化財になりました。26年は伝建協の総会。これまでのまちづくりの実績と総力を結集した大会になりました。毎年行われた修理では、所有者、技術者、専門家、行政が心をひとつにして取組む伝建の喜びと難しさを経験させていただきました。私の最後の仕事は、小山高専の横内先生の依頼を受けて、3月29日に宮本哲男さんと一緒に訪問した栃木市での講演でした。北関東の3つの伝建地区の皆さんに防災まちづくりのお話をさせていただきました。これまで自分が経験したことを伝えてきたことを精いっぱいお伝えすることができました。熊川の仕事からは離れましたが、おもてなしの会、ファンクラブ、古文書研究会の会員として、まちづくりに関わっていききたいと思えます。長い間本当に有難うございました。



話題 TOPIX

勢関が里帰り (2月8日・熊川宿)

パレオ若狭で開かれる交流会のため熊川宿に立ち寄られました。おばあさんが熊川出身で、子どもの頃は熊川宿へも遊びに来られたこともあるそうです。今後の益々のご活躍に期待します。



倉見屋について学習講演 (2月28日・若狭図書学習センター)

若狭町職員で学芸員の岡本潔和氏が、熊川宿の間屋倉見屋の歴史と建築について詳しく解説されました。古文書を読み解く所が興味深かったです。



ひちそうちょう

七宗町議会議員が防災研修 (3月14日・熊川児童館)

岐阜県七宗町の議員さんが来られ、防災まちづくり活動を研修されました。3月18日には、大阪府の枚方宿まちづくり協議会が来訪、視察されました。



La Festa Primavera 2015 (4月20日・熊川宿内)

春の東海近畿の名所旧跡を駆け巡るクラシックスポーツカーの祭典。4月17日名古屋をスタートし各地を回り、2年振りに熊川宿へ来られました。



蛭観賞と陶の灯りの夕べ (6月13日・主催 熊川宿ほたる生息研究会 熊川地区地域づくり協議会)

熊川公民館前広場に多くの家族連れが集まり、大いに盛り上がっていました。下ノ町の街道には陶の灯りが並べられ、幻想的な町並みが演出されました。



若狭町歴史環境講座 (6月14日・若狭町役場上中庁舎)

涛声学舎舎主の多仁照廣氏が講演され、地域の歴史資料を守ることがいかに大切かを学びました。熊川御用日記が見事に修復されていました。



全国伝建協議会長野大会 研修報告

とき…平成27年5月20日(水)〜22日(金)
ところ…長野県東御市・海野宿伝建地区

松見忠昭

1日目、若狭町職員は行政総会に、私たち住民は事例発表に出席しました。最初に、善光寺道(北国西街道)の宿場町として栄えた長野県千曲市「稲荷山」の発表の後、次回開催地である石川県加賀市の北前船船主集落「加賀橋立」と、山村集落「山中温泉ひがしたに」から地区と活動の紹介がありました。

* 続いて、信州大学工学部建築学科教授の土本俊和氏が保存対策の

事例について記念講演されました。滞在型交流施設「うんのわ」構想では「バリアフリー化を心掛けた」「防災面で隣地所有者の協力を得られたので実現できた」と話されました。夜は情報交換会が開かれ、全国各地の参加者と懇親し、皆様に昨年の若狭町大会でのお礼とお褒め



全体会

修が行われました。街道沿いに民家が並び、路地から裏へ行くと畑や保育園、駐車場などがあり、宿場町なので熊川と似た感じがしました。建物は全体に大きく立派で、街道も、車道が



海野宿を視察研修

の言葉を頂きました。2日目、6班に分かれて信州北国街道「海野宿」で、現地視察研

あり、柳並木と用水を挟んで歩道があり、とても広くきれいでした。保存活用と景観整備が完成されているように思いました。所要所では、地元の小学生が子ども学芸員として、旅籠屋造りや蚕室造り、うだつや海野格子など建物の特徴について、ハッキリ堂々と説明してくれました。街道の資料館や展示館を見学した後、滞在型交流施設「うんのわ」へ行きました。そこは、古民家の中庭を喫茶、蚕室をレストラン、主屋を宿泊施設に改装した施設で、保存地区への理解と文化振興、併せて地域活性化と観光振興を目的として昨年7月にオープンされ、しっかりとった方針で運営されているように感じました。海野宿を後にして昼食をとり、帰路につきました。岡本氏は夜の情報交換会や、3日目のプロジェクト会議に出席されました。参加者で記念撮影



参加者で記念撮影



「うんのわ」から外を望む



写真は今年のカレンダー

4/22
23

ヤクルトカレンダー取材対応

(まちづくり委員会)

乳酸菌飲料のヤクルトが毎年テーマを決めてイラスト描きのカレンダーを発行されています。来年は食がテーマで9月のカレンダーに鯖街道の鯖寿司が掲載されることになり、制作会社の方とイラストレーターが取材に来られました。ギネスクラスの発行部数を誇り、全国的な熊川宿のPRとなります。



4/20

全国街道交流会議勉強会

(若狭町歴史文化館)

10月に小浜市で開催される若狭路大会に向けた事前勉強会が開かれました。日本観光振興協会の丁野常務理事から街道遺産やストーリーを活かした街道観光のあり方について講演を受けたのち、若狭路の歴史・文化の継承と活用についてパネル討論が実施され、観光交流・鯖街道のまちづくりについて問題意識と理解を深めました。



昨年の盆踊りの様子

3/20

伝統芸能初練習

(熊川宿伝統芸能保存会)

毎年3月から11月まで毎月20日夜8時から熊川児童館で、てっせん踊りと熊川音頭を中心に唄と踊りの練習を行っています。茶話会交じりの気軽な練習ですので、参加はもちろん、見学だけでもOKです。この時期は、納涼盆踊りに向けて練習をしています。



6/28

ケイトウの種まきと七夕飾り

(まちづくり委員会)

県のクリーンアップ&フラワー大作戦の一環で、福井県総合グリーンセンターの緑化・花づくり推進部の支援を受けて、ケイトウの種まきを行いました。続いて、地元の小生たちも加わって、七夕の飾り付けが行われ、あらかじめ委員たちが手分けして作った多くの飾り物や短冊を5本の笹竹に取付けました。



5/16

ツデーマーチおもてなし

(まちづくり委員会)

あいにくの小雨の中、第1日目の鯖街道コースとなった熊川宿で、まちづくり委員と女性の会による長操鍋のおもてなしを行いました。顔なじみの常連さんも多く、再会を楽しみにしている方もおられます。大勢のウォーカーたちが、休憩や昼食をとって元気に歩いて行きました。



5/3

白石神社祭礼と山車巡行

(熊川区・白石神社祭礼実行委員会)

宵宮と当日午前中の神事で、青年と子どもたちが祭り囃子を奉納しました。穏やかな天候に恵まれ、午後から山車の巡行が行われ、観光客にも曳き手になってもらって熊川区内を巡行しました。小さな子どもたちも最後まで元気に山車を曳いてくれました。



嶺南病院跡地の活用について

医療法人嶺南病院は、50年以上の永きに亘り、身近な地域医療と地元住民の雇用の場として熊川と共に歩んできました。立地環境や耐震等の安全性により、昨年12月、若狭町市場(上中駅北側)へ新築移転しました。跡地については、熊川区へ売却いただく運びとなり、今後の活用については、「熊川まちなか活性化委員会」で、若狭町と熊川地区の代表メンバーが、立命館大学のサポートを受け、交流・研修施設や山車蔵としての活用について検討を重ねています。

あとがき

今年4月、鯖街道が日本遺産に認定されました。突然の吉報に湧いた感がありますが、熊川宿では平成18年から鯖街道の各拠点と連携して日本風景街道事業や関連の活動を行なってきました。もっと遡って、先人たちが地域住民、研究者のためみないご努力ご尽力があつて今回実を結んだと言えると思います。認定以降、メディア等の効果もあり、多くの方が熊川宿を訪れています。熊川宿では今年度、まちづくり委員改選に伴い、宮本新会長が就任されました。前会長の河合健一氏は、重伝建選定前から今日まで20年の永きに亘り会長を務められ、熊川宿を築いて来られました。この度、まちづくり委員会の名誉会長に就任され、これからもご指導いただけることになっております。これまでのご尽力に心から感謝するとともに、いよいよご健勝にて、ご活躍いただければと思います。(編集委員)